

●邦人被害情報

邦人歩行者に対する強盗事件が次の通り発生しました。身近なところで事件が発生していることを再認識し、被害防止に努めてください。

1. 発生日時

10月18日（火）20：15頃

2. 発生場所

セントロ地区、プレジデンテ・カルロス・カバルカンチ通り及びカンジド・デ・アブリウ通りの交差点付近（当館から約500m）

3. 被害品

ブラウス1着

4. 事件概要

- （1）被害者が、イヤホンを着用し音を聞きながら徒歩で帰宅途中、背後から男女（身長150cm位の13歳から15歳）が接近。
- （2）女が被害者を歩道脇のビルに力尽くで押しつけ、前方から男が立ちふさがり、逃亡を妨げた上で、被害者に対し携帯電話を要求した。男女が被害者の所持品を奪おうともみ合いとなるも、隙を見て被害者は容疑者から逃走に成功。逃走途中、所持していたブラウスを奪われていることに気づいた。

●チリ火山噴火による当地の影響

10月20日付当地「ガゼッタ・ド・ポーヴォ」紙は、パラナ州クリチバ市内及び同州沿岸都市においてチリのプジェウエ火山灰が降灰したと題して報じているところ、概要次の通りお知らせいたします。

1. 19日、チリのプジェウエ火山灰とみられる煤が、クリチバ市内及び沿岸都市部における路上駐車中の車輦多数に降灰している旨証言があった。なお、パラナ州気象技術研究所（Instituto Tecnológico Simepar）によると、（調査機器がないため）目撃された煤が火山灰や否や確定を避けたものの、気象状況及び風向きにより同州に到達した可能性がある旨言及した。また、煤が目撃されたクリチバ市内地区は次のとおり。バカシェリ、クリスト・ヘイ、ヘボウサス、カポン・ダ・インブイア、メルセス、ポルトン、ポア・ヴィスタ、シャシン、ボケイロン及びピラルジーニョ。沿岸部においては、パラナグア市、グアラトゥバ市及びマチャーニョス市である。

2. パウロ・サンドヴァル／カジュル大学病院呼吸器科チーフは、火山灰の影響につき次の通り述べた。

（1）呼吸器患者は、身体に影響を受けやすい。火山灰の吸気により気管支喘息、副鼻腔炎、気管支炎の発作を悪化させる可能性も所在。更に、幼児及び老人は、症状が悪化しやすい。

（2）心臓病患者の場合、呼吸器系に負担がかかるため、注意が必要。

（3）火山灰は、眼痛及び眼痒を伴う場合もあり、目を擦るのを避け、医師の処方により目薬等の使用を勧奨。

(4) 火山灰の吸気により気分が悪くなれば、一日に1～2リットルの水分補給で対処。

(5) 自宅で灰が溜まる場合、箒等で掃かず、水又は濡れ布巾等にて清掃すべし。

●渡航情報（広域情報）ドイツ衛星「ROSAT」の落下について

1. ドイツ宇宙航空センター（DLR）は、X線観測衛星「ROSAT」が大気圏に再突入する見通しを発表しています。DLRは、この再突入は、日本時間10月22日(土)午前9時から同月24日(月)午前9時（協定世界時（UTC）では24日(土)午前零時から24日(月)午前零時）の期間（誤差±1日）と予測しており、その際、大気圏において衛星が燃え尽きず、日本を含む世界中の広い地域（北緯53度～南緯53度まで）において、一部の破片が落下するおそれがあるとしています。

2. 同衛星の大気圏への再突入に関しては、以下のDLRのホームページ又は文部科学省のホームページより関連情報を入手することが可能ですので、必要に応じ関連報道と併せ参照してください。

DLR：[http://www.dlr.de/dlr/en/desktopdefault.aspx/tabid-10432/620\\_read-830/](http://www.dlr.de/dlr/en/desktopdefault.aspx/tabid-10432/620_read-830/)

文部科学省：[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/23/10/1312326.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/10/1312326.htm)

(問い合わせ先)

○外務省領事局海外邦人安全課（テロ・誘拐に関する問い合わせを除く）

住所：東京都千代田区霞が関2-2-1

電話：（代表）03-3580-3311（内線）5140

○外務省領事サービスセンター（海外安全担当）

住所：東京都千代田区霞が関2-2-1

電話：（代表）03-3580-3311（内線）2902

○外務省海外安全ホームページ：<http://www.anzen.mofa.go.jp/>  
<http://m.anzen.mofa.go.jp/mbtop.asp>（携帯版）